

血液科

1. スタッフ（平成25年4月1日現在）

科 長（教 授）	小澤 敬也
外来医長（学内講師）	大嶺 謙
病棟医長（病院助教）	多々良礼音
医 員（教 授）	坂田 洋一（兼） 古川 雄祐（兼） 室井 一男（兼）
（准 教 授）	永井 正
（講 師）	森 政樹 尾崎 勝俊（派遣） 鈴木 隆浩 外島 正樹（兼） 窓岩 清治（兼）
（学内講師）	翁 家国 大森 司（兼）
（病院講師）	藤原慎一郎
（特命講師）	上田 真寿（兼）
（助 教）	松山 智洋（派遣） 岡塚喜世志
（病院助教）	畑野かおる 目黒 明子 瀧澤 春子 岡部 寛（派遣） 上原 英輔 小林 洋行（派遣）

2. 診療科の特徴

- ・造血管腫瘍をはじめとするすべての血液疾患に対して、充実したスタッフが連携して診療を行っている。
- ・急性白血病、悪性リンパ腫に対しては、化学療法、抗体療法や放射線療法などの集学的治療を積極的に行い治療成績の向上を目指している。
- ・多発性骨髄腫に対するボルテゾミブ、レナリドミド、サリドマイドや骨髄異形成症候群に対するアザシチジン、悪性リンパ腫に対するベンダムスチンなど、有効性の期待される新規治療薬も使用している。
- ・再生不良性貧血や発作性夜間ヘモグロビン尿症などの難治性貧血疾患に対しては免疫抑制療法やエクリズマブによる最新の治療を行っている。
- ・血栓・出血性疾患についても専門医が診療に参加しており、多くの疾患に対応可能である。
- ・造血幹細胞移植も積極的に行っており、患者さんの病状にあわせてミニ移植、臍帯血移植を含む様々な移植手段を選択し、良好な成績を得ている。

・認定施設

- 日本血液学会認定研修施設
- 日本輸血細胞治療学会認定教育施設
- 日本臨床腫瘍学会認定研修施設
- 日本がん治療認定医機構認定研修施設

・認定医

- 日本血液学会専門医 小澤 敬也 他14人
- 日本血液学会指導医 小澤 敬也 他 8人
- 日本内科学会認定医 小澤 敬也 他21人
- 日本内科学会専門医 森 政樹 他 6人
- 日本内科学会指導医 室井 一男 他 8人
- 日本輸血学会認定医 室井 一男 他 2人
- 日本がん治療認定医 森 政樹 他 2人
- 日本臨床腫瘍学会暫定指導医 森 政樹

3. 診療実績・クリニカルインディケータ

1) 新来患者・再来患者数・紹介率

新来患者数	535人
再来患者数	18,483人
紹介率	69.8%

2) 入院患者数（病名別）

病 名	患者数
急性骨髄性白血病	156
急性リンパ性白血病	54
ホジキンリンパ腫	9
非ホジキンリンパ腫	196
成人T細胞性白血病	8
多発性骨髄腫	22
慢性骨髄性白血病	14
慢性リンパ性白血病	3
再生不良性貧血	8
骨髄異形成症候群	16
慢性骨髄単球性白血病	7
特発性血小板減少性紫斑病	13
血球貪食症候群	5
造血幹細胞移植ドナー	19
その他	26
（造血幹細胞移植患者）	(22)
合 計	556

3) 手術症例病名別件数

病 名	人 数
骨髄採取術	11
脾臓摘出術	2
肺切除術	2

4) 治療成績

急性骨髄性白血病初回寛解率	86%
急性リンパ性白血病初回寛解率	75%
非ホジキンリンパ腫R-CHOP寛解率	86%
ホジキンリンパ腫ABVD寛解率	100%

5) 合併症例

6) 死亡症例・死因・剖検数・剖検率

白血病	10
悪性リンパ腫	8
多発性骨髄腫	2
骨髄異形成症候群	1
肺炎	2
血球貪食症候群	1
固形腫瘍	1
合 計	25

<剖検数> 3名

<剖検率> 12%

7) 主な検査・処置・治験件数

骨髄穿刺	約1000件
骨髄生検	約50件
遺伝子診断	約200件
細胞表面抗原解析	約1000件
白血病初回治療	39件
悪性リンパ腫初回治療	98件
再生不良性貧血ATG療法	5件
造血幹細胞移植 (合計)	22件
血縁者骨髄移植	1件
血縁者末梢血幹細胞移植	4件
非血縁者骨髄移植	11件
臍帯血移植	3件
自家末梢血幹細胞移植	3件
治験 WT4869 (WT1ワクチン)	2件
治験 JR-031 (MSC)	1件
治験 OMB110928 (Ofatumumab)	1件

8) カンファレンス症例

<血液科症例検討会>

- ・血球貪食症候群合併ホジキンリンパ腫
- ・血球貪食症候群合併急性骨髄性白血病
- ・過粘調症候群を呈したMALTリンパ腫
- ・免疫不全関連血管内リンパ腫
- ・わが国の医療経済の問題点
- ・形質細胞腫瘍と骨髄不全症候群の合併例
- ・ATLに対するIFN/AZT療法
- ・移植後肺障害へのetanerceptの使用
- ・骨髄異形成候群の診療
- ・難治性ホジキンリンパ腫の治療方針

4. 事業計画・来年の目標

当科は栃木県内で数少ない血液科診療を行う施設の一つとして来年度も診療にあたりたい。

各種臨床試験に積極的に参加して新規治療薬、治療法の標準化に貢献する。また、厚生労働省「特発性造血障害に関する調査研究」班の主要メンバーとして再生不良性貧血、骨髄異形成症候群、発作性夜間ヘモグロビン尿症などの難治性疾患に対する治療法の先駆的開発を行っていく。

急性白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫という症例数の多い腫瘍性疾患に対しては、新規分子標的療法の導入、造血幹細胞移植療法の適応拡大による治療成績向上を目指すと同時に、悪性リンパ腫に対する養子免疫遺伝子療法や間葉系幹細胞を用いた難治性移植後GVHDの治療など新たな治療法の開発を推進していきたい。